

第2回 千歳市かわまちづくり検討会資料

第1回検討会の振り返り

令和6年2月29日

開催概要

- 日時：令和6年1月29日（月）13：30～
- 場所：千歳市総合福祉センター 402号
- 出席者：13名（うち1名 WEB参加）

開催主旨

第1回千歳川かわまちづくり検討会が開催され、千歳川の“かわまちづくり”について議論が開始された。

事務局より、千歳川および千歳市の現状、かわまちづくり支援制度、千歳市かわまちづくり計画について説明があり、委員間での意見交換が行われました。また、第2回検討会に向けて、ソフト、ハード施策に関するアンケートを実施することになった。

検討会での主な意見

- どのようなソフト施策を提案するかが重要
- 継続的に利益を生むような仕組みが必要
- 日常的な賑わいが生まれる流れの構築が必要
- 計画策定に向けて行政と地元住民の対話が重要
- 冬のアクティビティーもあるとよい
- 住民、観光客などターゲットを設定する必要がある
- 「来てよかった」と思えるようなことを提案したい
- 「ちとせ未来ビジョン」との整合を図った検討が必要
- 千歳川の素晴らしさを多くの人に知ってもらいたい
- ハード整備と合わせて、市民の取組が重要



第1回検討会の様子

コンセプトの設定等に対する意見 → 住民理解、環境面（生き物、景観等）への配慮のほか、ターゲット、動線を検討

- 地域住民の理解が不可欠
- 利用者のマナー（騒音、ごみ、プライバシー侵害等）の問題があると、地域の方は賛成しがたい
- 地域の方にも内容を説明し理解をいただく機会を設けてほしい
- 川とその環境（そこに棲む生き物）を上手く活用しながら、共存できるようなスタンスが取れたらいい
- 人や川の生き物、サケの産卵床への影響など、弊害も出てくるのが考えられるため、慎重に議論しながらも、楽しく賑わいのある空間をつくっていききたい
- メインのターゲットが住民なのか、ウォーターレジャーを楽しむ方なのか、インバウンドまで含めるのか、ある程度意思統一が必要
- 継続的な利用や、地域住民への配慮、川の生き物への配慮など
- ちとせ未来ビジョンと整合性を図る
- 立派な建物を造るのではなく、ソフト面を十分に考えながら、点と点を繋ぐ線まで想像できるような計画を作っていけたら
- 生物や景観などの自然を第一に守る
- 利用者の導線をどうするのが大事
- ターゲットが市民なのか、インバウンドの旅行者なのか、あるいは出張者も相当数来る。こういったことも考えながら、地元住民と来訪者双方にとっていいものに
- 千歳市民全体で千歳川を大切にしたい気持ちを醸成する必要がある

ソフト施策への意見 → ソフト施策のイメージを共有

- どのようなソフト施策を構築するかというのが重要
- 継続的な利益を生むような仕組みをつくる前提で整備しないと使われなくなってしまう
- 日常的に何かを実施でき、そこに人が集まり、にぎわいが生まれるような流れが構築できるとよい
- 冬場のアクティビティが抜け落ちることがある、四季の展開も含めて考えられるといい
- 「来てよかった」、「いい景色を見た」、「おいしかった」と思ってもらえるようなことを考えていきたい
- この川の素晴らしさをもっと多くの人に知ってもらいたい

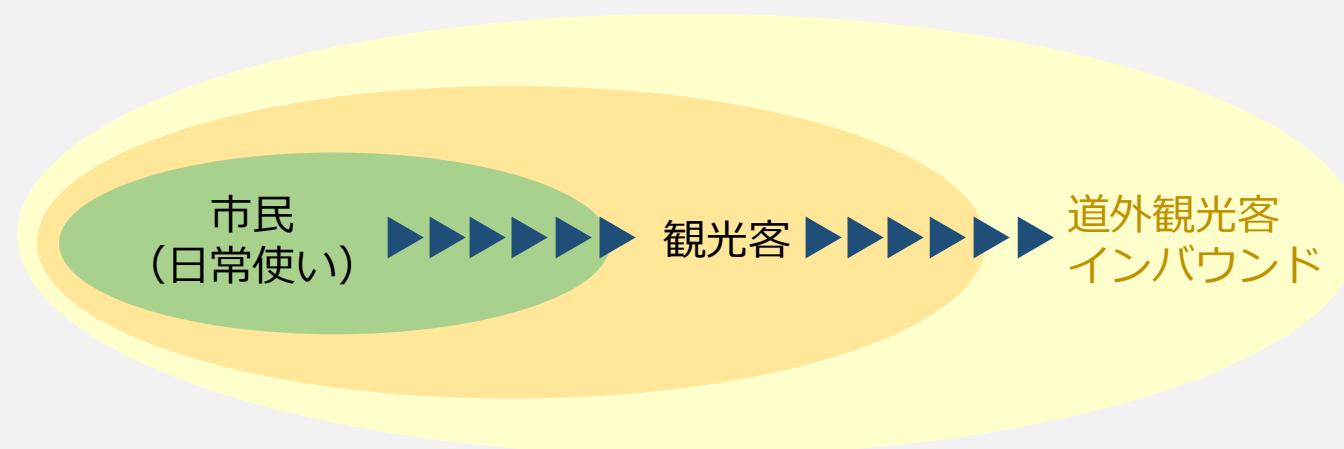
ハード施策への意見 → 今後検討

- 橋の下を通れない箇所があることや、夜間は暗いことが解消されると更に利活用が進む
- 単に暗いから、危険だから明るくするため街灯を設置するのではなく、観光したくなるようなライトアップが継続的にできるとよい
- 遊歩道や公園などで水筒に給水ができるようなスポットの設置
- 自然エネルギーを活用した街灯

- 千歳川の空間資源の利活用については、これまでも市民の方などから多くのご意見をいただいております、利活用することへの関心は高い状況にある。
- かわまちづくりは、地域活性化や観光振興などを目的に国や市、民間事業者などの関係者が連携して地域の賑わいを創出する取組であることから、計画を作成する上でのターゲットは、市民と観光利用の両方を考慮した内容とする。
- なお、各施策の実施にあたっては、地域住民への配慮や理解を得ることはもとより、施策の実施箇所の選定にあたっては、現地視察を実施した上で、本検討会でも議論いただくこととする。

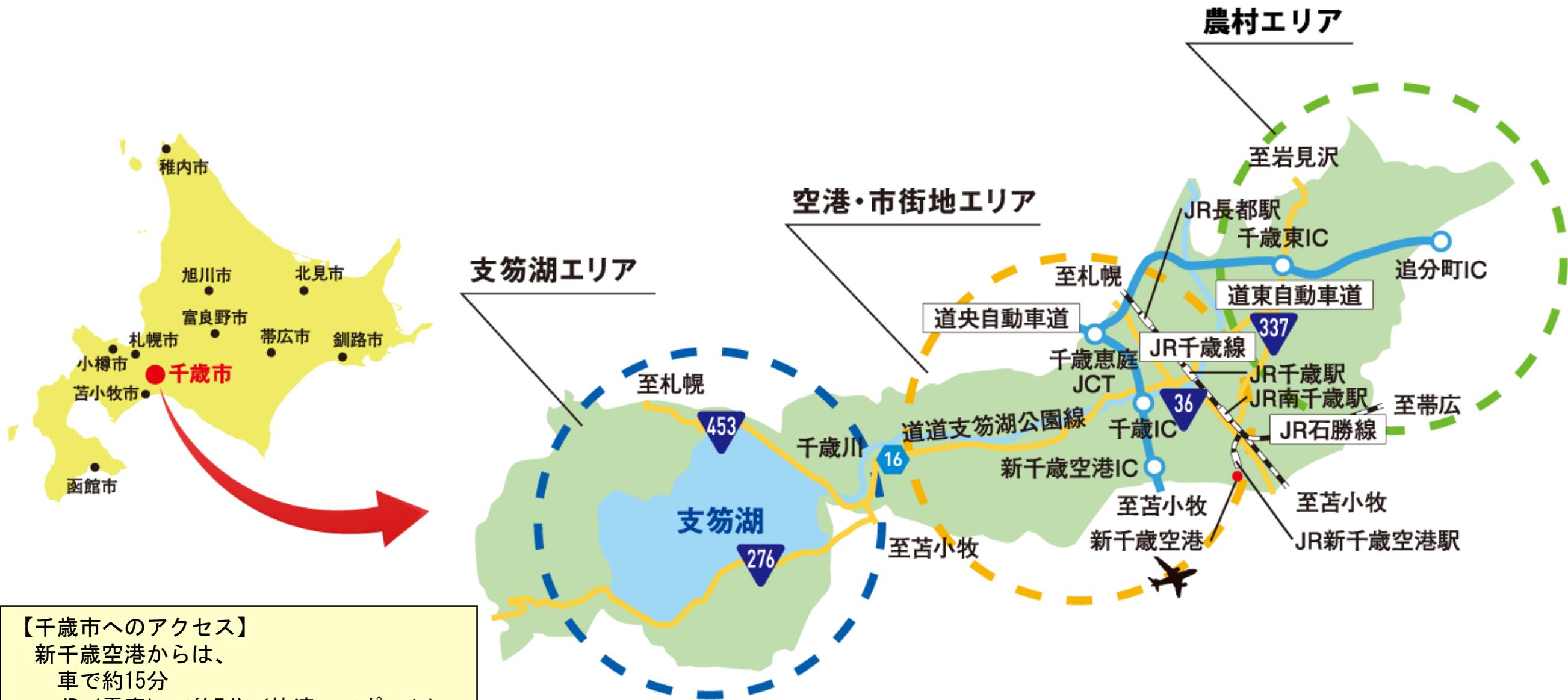
ターゲット

市民を対象とした日常使いを含めた整備により、道内・道外観光客およびインバウンド利用への発展を目指す。



千歳市へのアクセス手段（動線の検討）

千歳市は、千歳空港にも近く、支笏湖や道内各地を繋ぐ拠点としての機能を有する。
市内へのアクセスは、JRや車が多いと想定されるため、駐車場の配置を踏まえた動線の検討が必要。



【千歳市へのアクセス】
新千歳空港からは、
車で約15分
JR（電車）で約7分（快速エアポート）
札幌市からは、
車で約60分（高速）、約80分（一般道）
JR（電車）で約30分（快速エアポート）

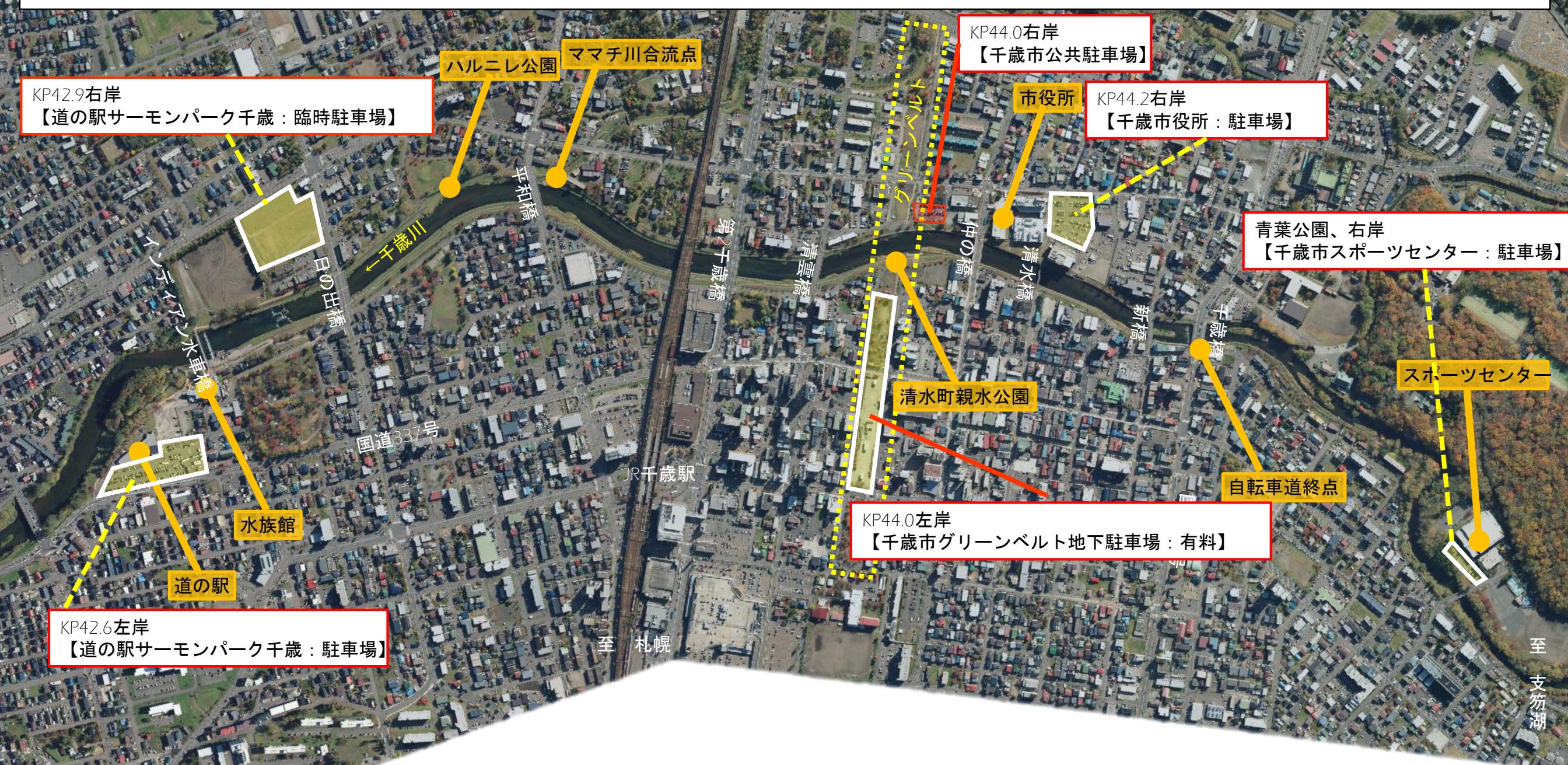
【道の駅サーモンパーク千歳へのアクセス】
新千歳空港からは、車で15分
JR千歳駅からは、徒歩で15分

【支笏湖へのアクセス】
新千歳空港からバスで約55分。
千歳駅からは、バスで約45分。
千歳市内からは、車で約30分（25km、道道16号・国道453号）
札幌市内からは、車で約70分（50km、国道435号）

図は、ちとせの観光 - 北海道千歳市公式ホームページ > ちとせの歴史と文化より引用
<https://www.welcome-to-chitose.jp/history.html>

千歳市内の移動手段（動線の検討）

- ・サーモンパークやグリーンベルトには、大きな駐車場があり、拠点としての機能が期待できるが、サーモンパークとグリーンベルト間は、徒歩で20分。JR千歳駅からサーモンパークや千歳川沿いの中心部までは、徒歩で15分と少し距離がある。また、千歳川沿線以外の市民が千歳川へアクセスする際は、車が中心となる。
- ・市民などの千歳川沿いへのアクセスや拠点間の移動を考慮すると、駐車場の確保や移動を容易にするシェアサイクル等の移動手段について検討が必要。



千歳川沿いの駐車スペース（小規模な有料駐車場を除く）

ソフト施策のイメージについて、より具体的なイメージを持っていただくため、各市町のHPで公表されている道内の他地区の最近の事例を紹介します。

●旭川駅周辺かわまちづくり計画（令和5年8月登録）

- (1) 水辺を周遊する広域的なサイクリング・フットパスコースの設定
- (2) 忠別川・牛朱別川の水辺空間での新たなイベント・アウトドア利用の企画
- (3) 冬のアクティビティプランの設定
- (4) 水辺空間を活用した環境教育の推進
- (5) ICT を活用した情報提供
- (6) 安全・安心な水辺利用に関するルールづくり

<https://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/700/735/747/749/d078025.html>



●江別市かわまちづくり（令和4年8月登録）

- (1) 千歳川の水辺空間を活用した新たなイベントの企画（観光協会、NPO、民間事業者等）
- (2) 冬のイベント・アクティビティプランの設定（観光協会・民間事業者）
- (3) 広域観光周遊モデルコースの設定（江別市）

<https://www.city.ebetsu.hokkaido.jp/soshiki/shoko/108727.html>



●網走かわまちづくり（平成28年3月登録、令和4年8月変更）

- (1) モデルコース・プランの設定
- (2) 安全策の検討
- (3) ICT を活用した情報提供
- (4) 新たなイベントの企画

https://www.city.abashiri.hokkaido.jp/060soshiki/210kensetsutoshi/kawamachi_keikakusyo_201602.html



●美瑛川地区かわまちづくり（平成26年3月登録）

- (1) サイクリングコース、マップの作成

<https://www.hkd.mlit.go.jp/as/tisui/vkvvn80000000y05.html>

